

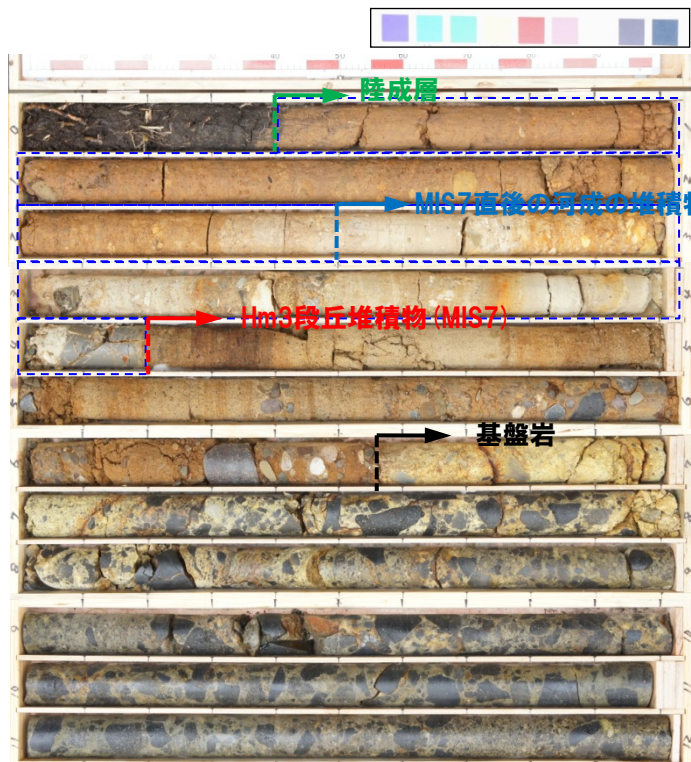
ニセコ火山噴出物（火砕流堆積物）関連

茶津-2ボーリング

一部修正 (H31/4/26審査会合)

- 基盤岩（上面標高約43m）の上位に、円礫を主体とする砂礫層及び淘汰の良い砂層並びに礫混じり砂質シルト層、砂質シルト層、礫混じり砂質シルト層及び砂質シルト層が認められる。
- 本調査箇所はA-3トレンチと同位置でありHm3段丘面が判読されることから、基盤岩上位の砂礫層及び砂層はHm3段丘堆積物（MIS7）に区分される。
- 本調査箇所はA-3トレンチと同位置であることから、Hm3段丘堆積物上位の礫混じり砂質シルト層及び砂質シルト層は、A-3トレンチとの層相及び分布標高の対比より、MIS7直後の河成の堆積物に区分される。
- 仮にニセコ火山噴出物（火砕流堆積物）が本地点に到達していた場合、ニセコ火山噴出物（火砕流堆積物）の噴出年代より古い、Hm3段丘堆積物の上位に、ニセコ火山噴出物（火砕流堆積物）が認められる可能性が考えられるが、そのような状況は認められない。

仮にニセコ火山噴出物（火砕流堆積物）が本地点に到達していた場合、ニセコ火山噴出物（火砕流堆積物）が認められる可能性が考えられる範囲

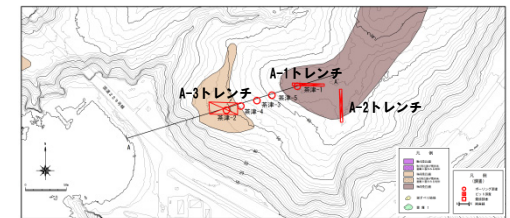


コア写真（深度0～12m）

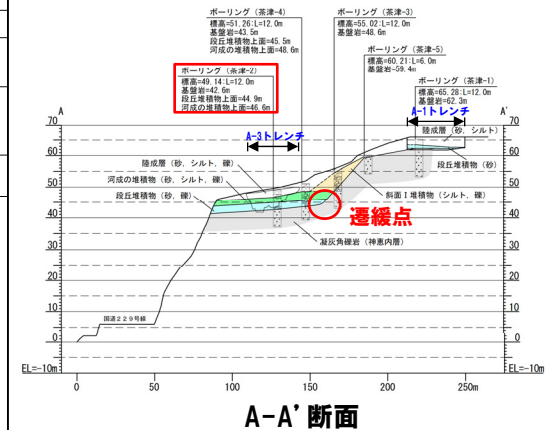
茶津-2 孔口標高 49.14m 掘進長 12.00m

標尺	標高 (n)	深 度 (n)	柱 状 図 名	地 質 調 査 事 項	色 調	記 事
1	48.75	0.38	シルト	黒粘	---	【深度0～0.38m】粘物が多く混じる。
2	47.74	1.40	砂質シルト	褐灰	---	【深度0.39～1.40m】まれに径5cm以下のクサリ垂角内礫混じる。
3	46.84	2.50	礫混じり砂質シルト	褐灰	---	【深度1.40～2.50m】径5cm以下のクサリ垂角・円礫混じる。
4	46.44	2.70	砂質シルト	淡褐灰	---	【深度2.50～2.70m】まれに径0.5cmの垂角内礫混じる。
5	44.94	4.20	礫混じり砂質シルト	褐灰	---	【深度2.70～4.20m】径10cm以下のクサリ垂角・円礫混じる。深床3.30～3.60m：礫多し。深床3.70～4.00m：砂質。
6	43.57	5.57	淡灰～淡褐灰	褐灰	---	【深度4.20～5.57m】均一な淘汰の良い中砂。深床4.25～4.40m：黒砂の異状。∠0°。深床4.75～5.30m：黒斑。深床5.00～5.40m：円礫状在。
7	42.59	6.55	砂	褐灰	---	【深度5.57～6.55m】径7cm以下の円礫と中砂。礫理：安山岩、頁岩、珪質岩。
8	41.99	7.15	淡褐灰	褐灰	---	【深度6.55～7.15m】粒状の一種な岩相をなすコアは粒状となる。礫理：黒色粒状の微細な安山岩。
9			凝灰角礫岩	明灰	---	深床6.55～7.15m：風化による酸化あり。
10					---	
11					---	
12	37.14	12.00			---	

柱状図（深度0～12m）



調査位置図



A-A'断面

※本ボーリングは、A-3トレンチと同位置で調査を実施している。本層は、A-3トレンチの同標高に分布する層相と比較し、差異が認められるが、その差異はボーリング調査結果が点情報であること及び地層の平面方向の不均質性に起因するものである。

ニセコ火山噴出物（火砕流堆積物）関連

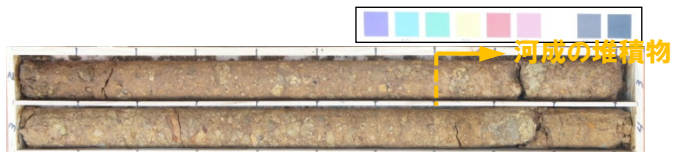
茶津-4ボーリング

一部修正 (H31/4/26審査会合)

- 基盤岩（上面標高約44m）の上位に、円礫を主体とする砂礫層並びに垂角礫のクサリ礫が混じる礫層、シルト質礫層及び礫混じりシルト層が認められる。
- 本調査箇所は、A-3トレンチの背後に位置し、Hm3段丘面が判読されることから、基盤岩上位の砂礫層はHm3段丘堆積物（MIS7）に区分される。
- Hm3段丘堆積物上位の礫層及びシルト質礫層は、A-3トレンチのMIS7直後の河成の堆積物と層相が調和的であり、同程度の標高に分布することから、MIS7直後の河成の堆積物に区分される。
- 仮にニセコ火山噴出物（火砕流堆積物）が本地点に到達していた場合、ニセコ火山噴出物（火砕流堆積物）の噴出年代より古い、Hm3段丘堆積物の上位に、ニセコ火山噴出物（火砕流堆積物）が認められる可能性が考えられるが、そのような状況は認められない。



コア写真（深度0～12m）



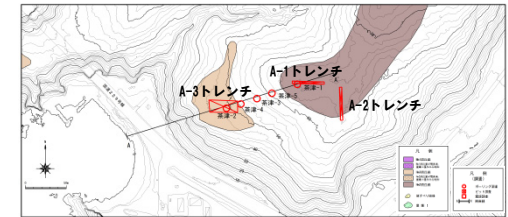
コア写真（別孔 深度2～4m）

茶津-4 孔口標高 51.26m 掘進長 12.00m

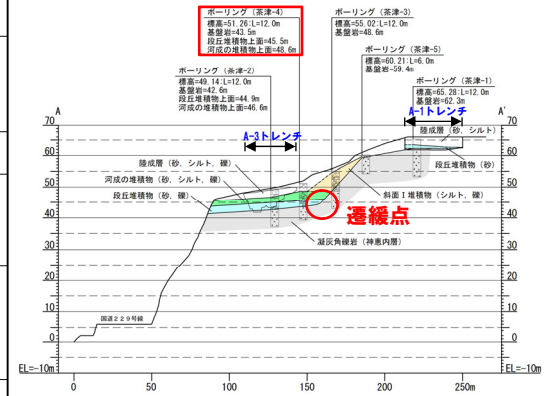
標尺	標高 (n)	深度 (n)	柱状図	地質	色調	記
	50.96	0.30	有機質シルト	風積		【深度0～0.30m】植物根多く含む。
1			礫混じりシルト	風積		【深度0.30～2.70m】径5cm以下のクサリ垂角・円礫混じる。
2			シルト質礫層	風積		
3	49.58	2.70		風積		【深度2.70～4.80m】径5cm以下のクサリ垂角・円礫。礫種：安山岩、火山礫凝灰岩。
4				風積		
5	49.46	4.80		風積		【深度4.80～5.73m】径30cm以下のクサリ垂角内礫。礫種：凝灰角礫岩。
6	45.53	5.73		風積		
7				風積		【深度5.73～7.76m】径25cm以下の円礫と粗・中砂。礫種：安山岩、凝灰岩、緑色岩、頁岩、チャート。深度7.65～7.75m：中砂。
8	43.50	7.76		風積		
9				風積		【深度7.76～10.25m】塊状の一種な岩相をなしコアは特状となる。礫種：黒色凝灰岩の礫面あるいは多孔質な安山岩。
10	41.01	10.25		風積		
11	40.83	10.63		風積		【深度10.25～10.63m】塊状無層理の一種な岩相をなす。
11	40.09	11.17		風積		【深度10.63～11.17m】塊状の一種な岩相。礫種：黒色凝灰岩の安山岩。
12	39.28	12.00		風積		【深度11.17～12.00m】塊状無層理の一種な岩相。深度11.60～11.77m：砂質凝灰岩採取。∠40°。

柱状図（深度0～12m）

： 仮にニセコ火山噴出物（火砕流堆積物）が本地点に到達していた場合、ニセコ火山噴出物（火砕流堆積物）が認められる可能性が考えられる範囲



調査位置図

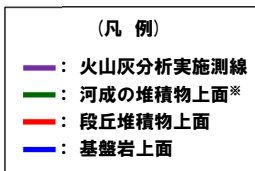
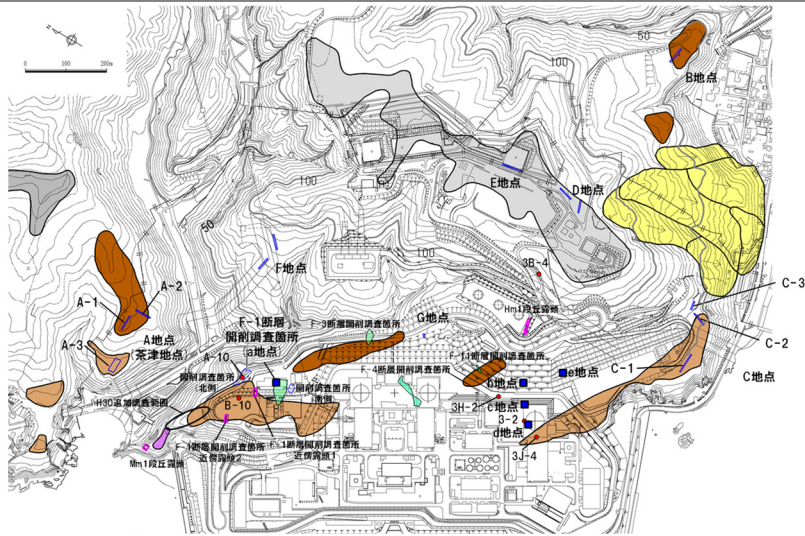


A-A' 断面

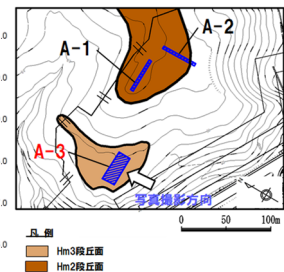
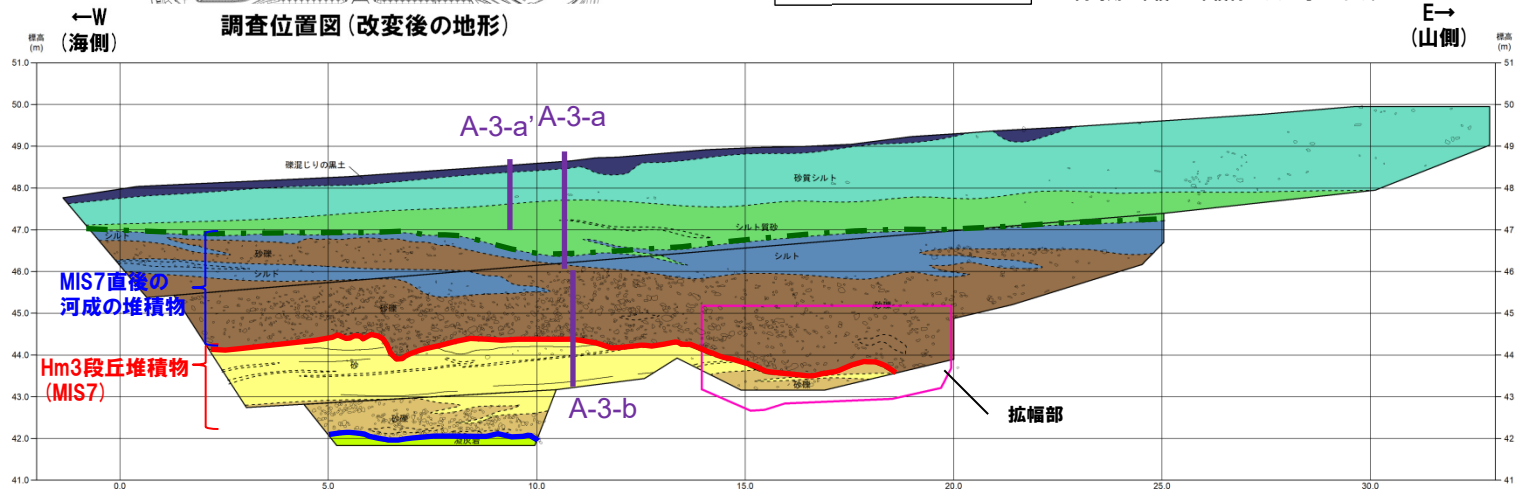
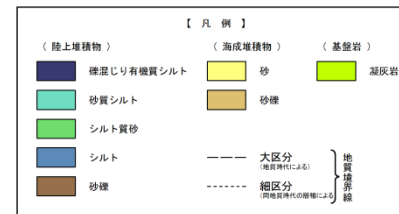
ニセコ火山噴出物（火砕流堆積物）関連

(参考) A-3トレンチ (1/7)

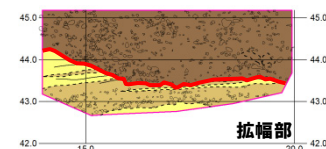
一部修正 (H31/4/26審査会合)



※距離呈約12~13mにおいてMIS7直後の河成の堆積物(シルト)と上位の陸成層(シルト質砂)の境界部に認められる乱れは、河成の堆積物(シルト)堆積直後に、陸成層(シルト質砂)が堆積したことによる擾乱等の影響が推定される。また、当該構造は指交関係様であることから、両層は、ほぼ同時期に堆積した堆積物であると考えられる。



トレンチ壁面スケッチ (A-3)

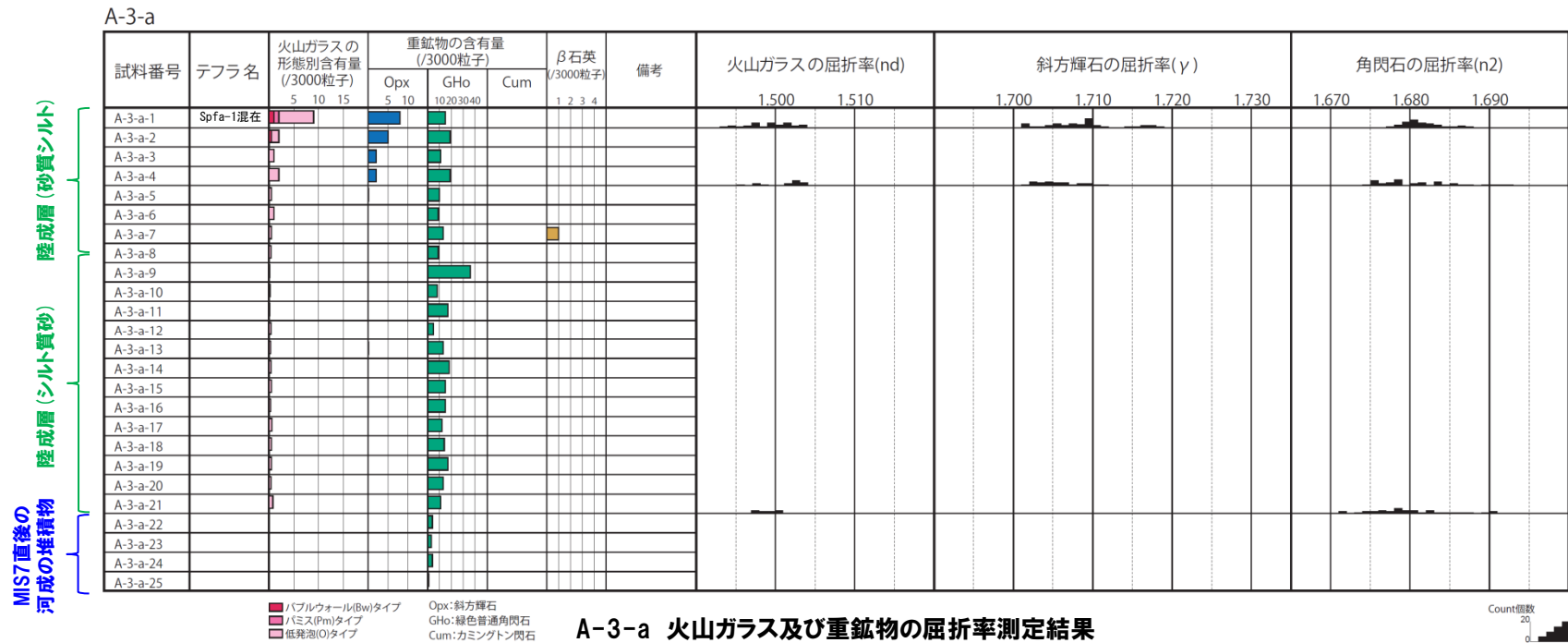


トレンチ壁面スケッチ (A-3拡幅部)

ニセコ火山噴出物(火砕流堆積物) 関連

(参考) A-3トレンチ (2/7)

- 露頭観察では、色調等から火山灰主体と判断される地層は認められないものの、火山ガラス及び重鉱物の屈折率測定並びに火山ガラスの主成分分析を実施した(測線A-3-a)。
- 火山ガラスの屈折率測定及び主成分分析の結果、陸成層(砂質シルト)には、Spfa-1に対比される火山ガラスの混在が認められる(試料番号A-3-a-1)。



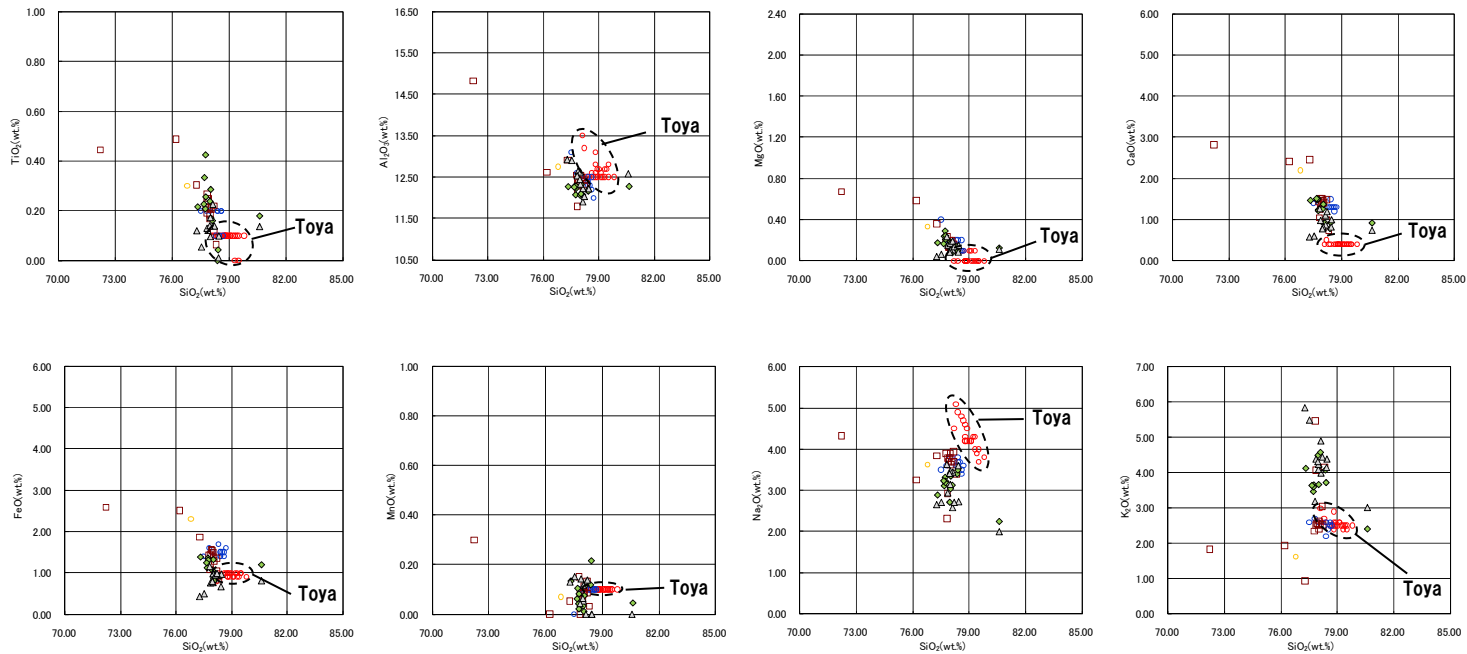
(参考) Spfl及びSpfa-1の屈折率(町田・新井, 2011より)

略号	特徴	火山ガラス	斜方輝石	角閃石
Spfl	バブルウォールタイプ・ハミスタイプの火山ガラス主体	1.500-1.503	1.730-1.733	1.688-1.691
Spfa-1	ハミスタイプの火山ガラス主体	1.501-1.505 (1.502-1.503)	1.729-1.735	1.688-1.691

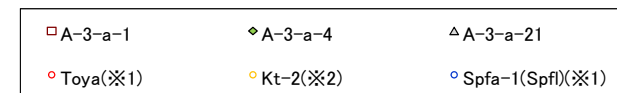
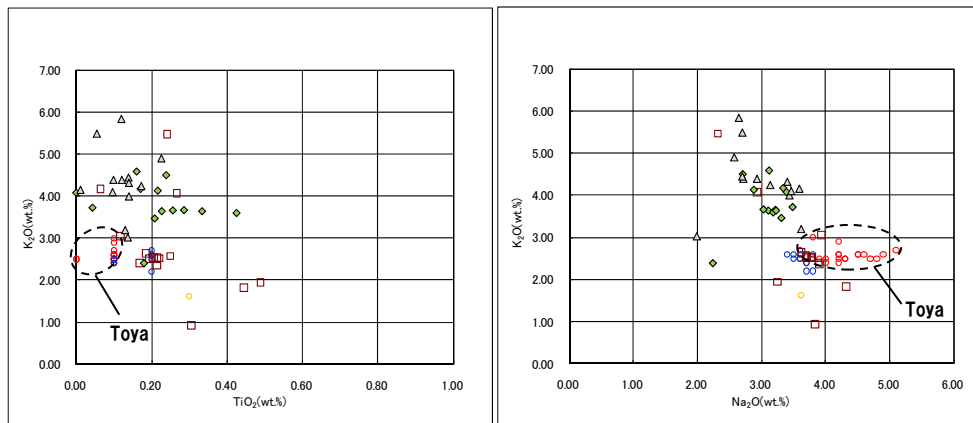
(参考) 洞爺火山灰(Toya)の屈折率(町田・新井, 2011より)

略号	特徴	火山ガラス	斜方輝石	角閃石
Toya	バブルウォールタイプ・ハミスタイプの火山ガラス主体	1.494-1.498	1.711-1.761 (1.758-1.761, 1.712-1.729 bimodal)	1.674-1.684

(参考) A-3トレンチ (3/7)



A-3-a 火山ガラスの主元素組成（ハーカー図）



※1 町田・新井(2011), ※2 青木・町田(2006)

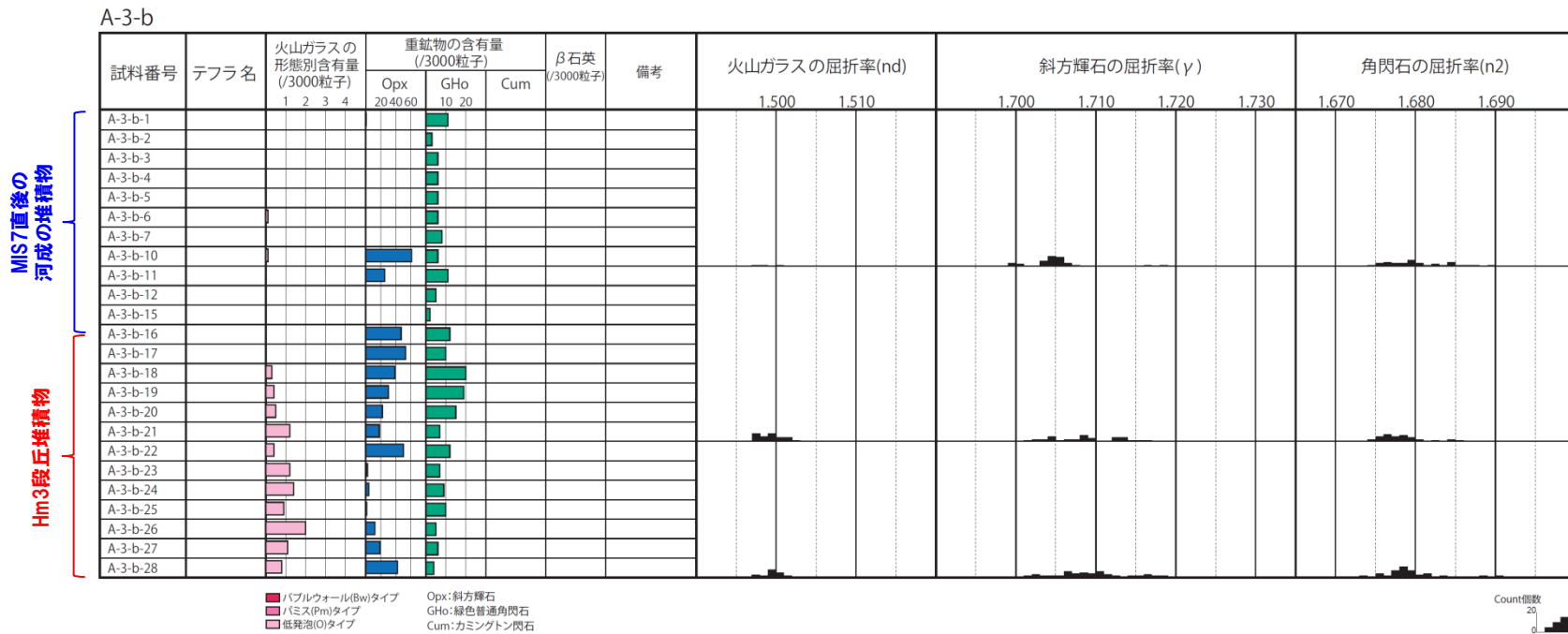
A-3-a 火山ガラスのK₂O-TiO₂図(左図), K₂O-Na₂O図(右図)

ニセコ火山噴出物（火砕流堆積物）関連

(参考) A-3トレンチ (4/7)

一部修正 (H31/4/26審査会合)

- 露頭観察では、色調等から火山灰主体と判断される地層は認められないものの、火山ガラス及び重鉱物の屈折率測定並びに火山ガラスの主成分分析を実施した(測線A-3-b)。
- 火山ガラスの屈折率測定及び主成分分析の結果、MIS7直後の河成の堆積物には、洞爺火山灰 (Toya) 及びSpfa-1に対比される火山ガラスは認められない。



A-3-b 火山灰分析結果

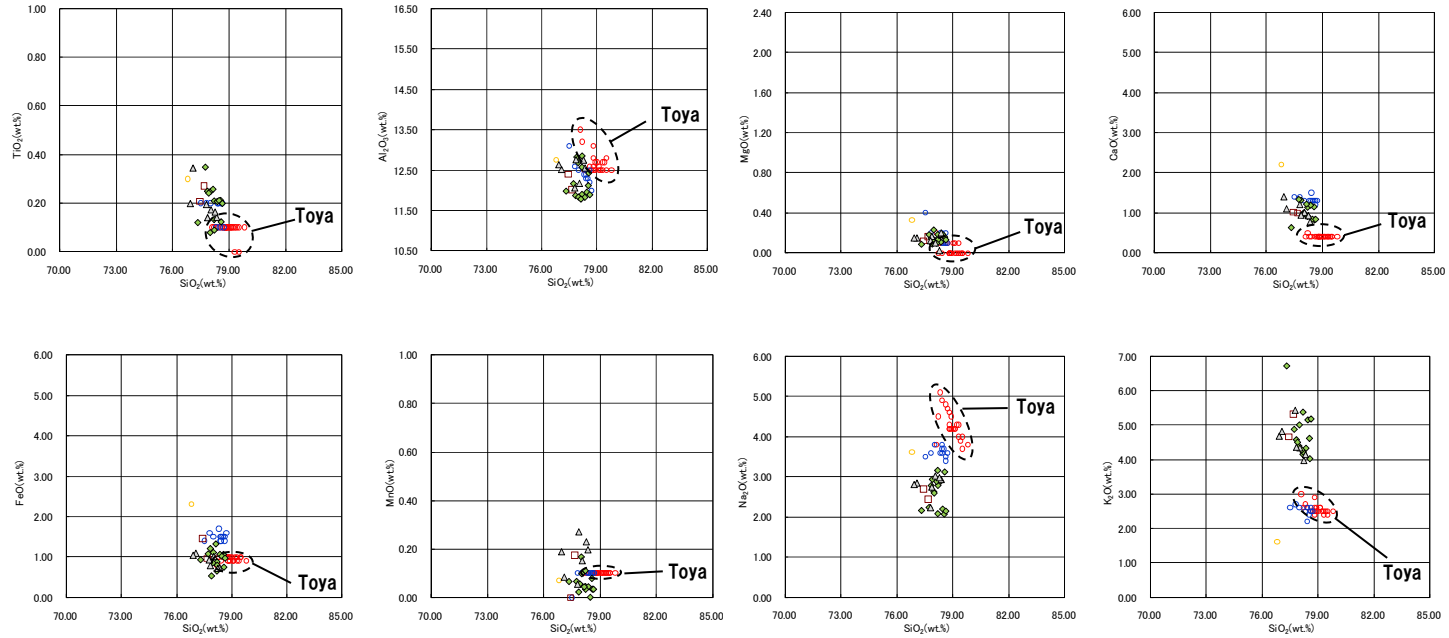
(参考) Spfl及びSpfa-1の屈折率(町田・新井, 2011より)

略号	特徴	火山ガラス	斜方輝石	角閃石
Spfl	ハブルウォールタイプ・ハミスタイプの火山ガラス主体	1.500-1.503	1.730-1.733	1.688-1.691
Spfa-1	ハミスタイプの火山ガラス主体	1.501-1.505 (1.502-1.503)	1.729-1.735	1.688-1.691

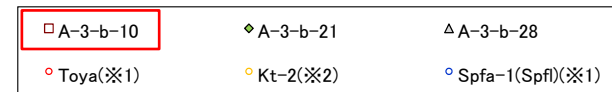
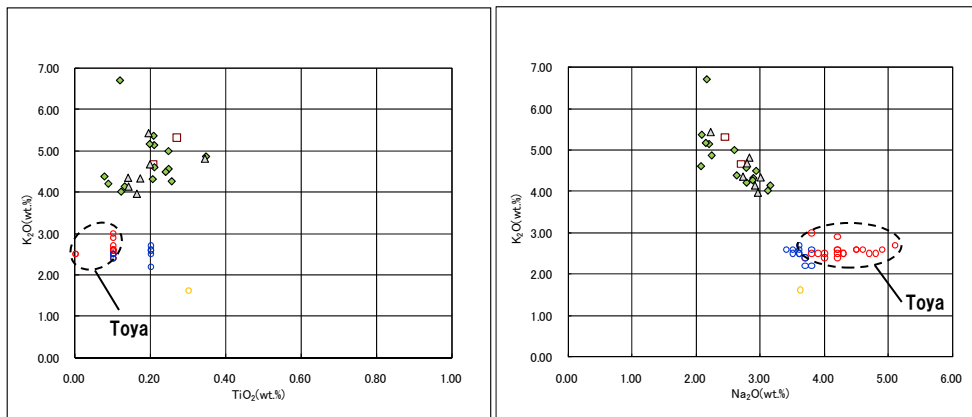
(参考) 洞爺火山灰 (Toya) の屈折率(町田・新井, 2011より)

略号	特徴	火山ガラス	斜方輝石	角閃石
Toya	ハブルウォールタイプ・ハミスタイプの火山ガラス主体	1.494-1.498	1.711-1.761 (1.758-1.761, 1.712-1.729 bimodal)	1.674-1.684

(参考) A-3トレンチ (5/7)



A-3-b 火山ガラスの主元素組成（ハーカー図）



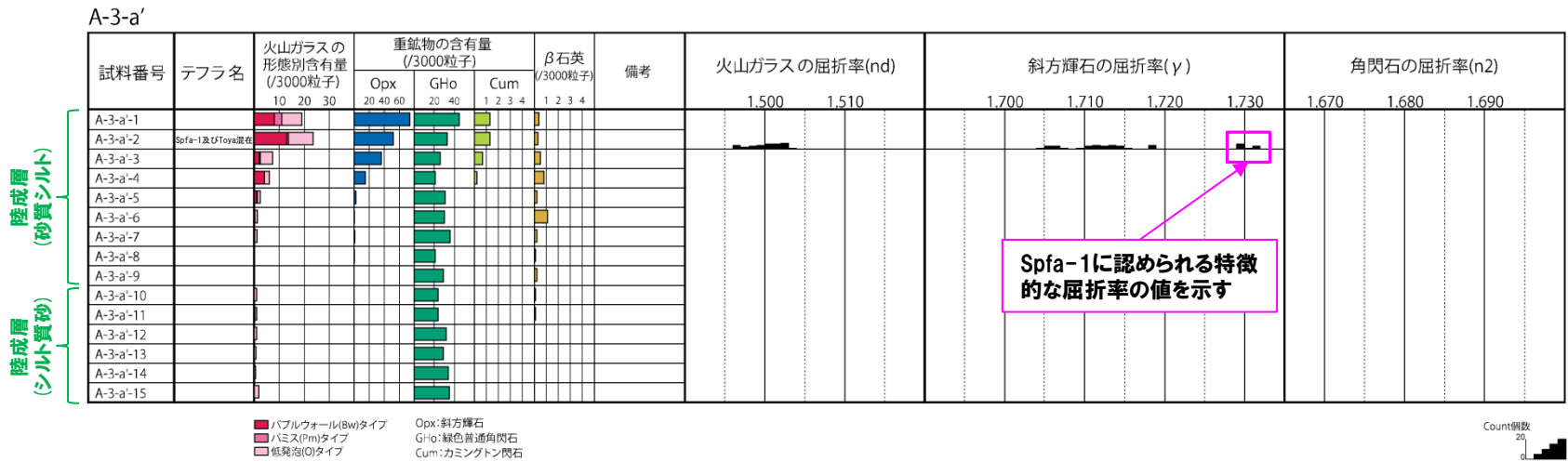
※1 町田・新井(2011), ※2 青木・町田(2006)

A-3-b 火山ガラスのK₂O-TiO₂図(左図), K₂O-Na₂O図(右図)

ニセコ火山噴出物（火砕流堆積物）関連

(参考) A-3トレンチ (6/7)

- 測線A-3-a付近に測線(A-3-a')を設定し、火山ガラス及び重鉱物の屈折率測定並びに火山ガラスの主成分分析を実施した。
- 火山ガラスの屈折率測定及び主成分分析の結果、陸成層(砂質シルト)には、洞爺火山灰(Toya)及びSpfa-1に対比される火山ガラスの混在が認められる(試料番号A-3-a'-2)。
- 重鉱物の屈折率測定の結果、陸成層(砂質シルト)には、Spfa-1に認められる特徴的な屈折率の値(1.730付近)を示す斜方輝石が確認される(試料番号A-3-a'-2)。



A-3-a' 火山ガラス及び重鉱物分析結果

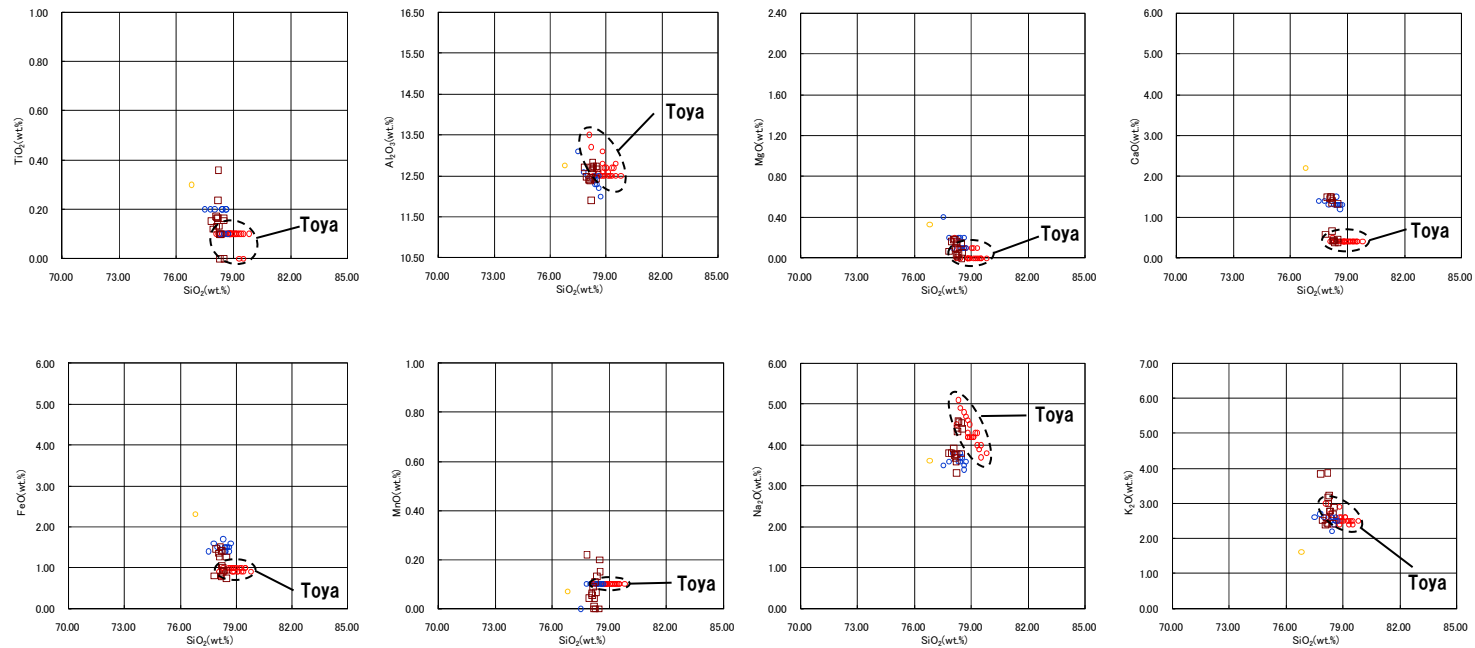
(参考) Spfl及びSpfa-1の屈折率 (町田・新井, 2011より)

略号	特徴	火山ガラス	斜方輝石	角閃石
Spfl	バブルウォールタイプ・ハミスタイプの火山ガラス主体	1.500-1.503	1.730-1.733	1.688-1.691
Spfa-1	ハミスタイプの火山ガラス主体	1.501-1.505 (1.502-1.503)	1.729-1.735	1.688-1.691

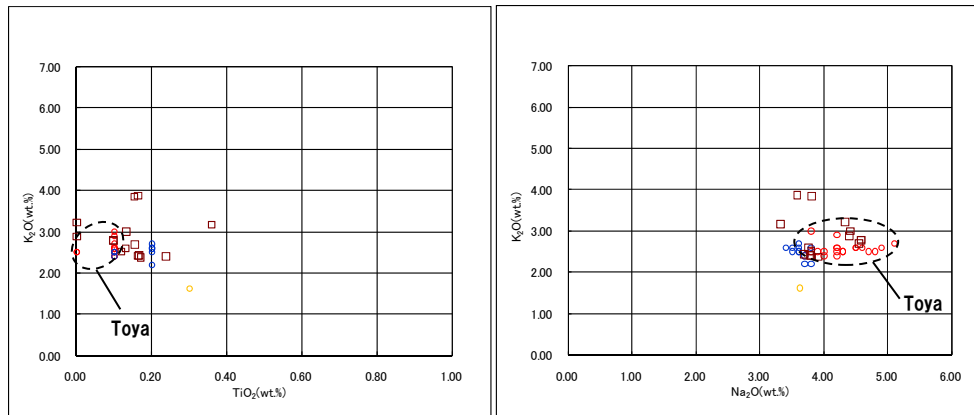
(参考) 洞爺火山灰(Toya)の屈折率 (町田・新井, 2011より)

略号	特徴	火山ガラス	斜方輝石	角閃石
Toya	バブルウォールタイプ・ハミスタイプの火山ガラス主体	1.494-1.498	1.711-1.761 (1.758-1.761, 1.712-1.729 bimodal)	1.674-1.684

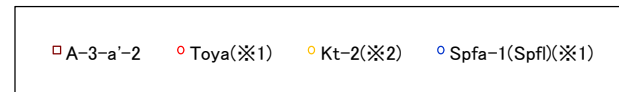
(参考) A-3トレンチ (7/7)



A-3-a' 火山ガラスの主元素組成 (ハーカー図)



A-3-a' 火山ガラスのK₂O-TiO₂図 (左図), K₂O-Na₂O図 (右図)



※1 町田・新井 (2011), ※2 青木・町田 (2006)

B-3ボーリング（1/3）

一部修正（R5/7/7審査会合）

- 本地点においては、コア観察の結果、岩内層上位の標高12.14～-0.01m（深度1.60～13.75m）に火山麓扇状地堆積物が認められる。
- 仮にニセコ火山噴出物（火砕流堆積物）が本地点に到達していた場合、ニセコ火山噴出物（火砕流堆積物）の噴出年代より古い、岩内層の上位に、ニセコ火山噴出物（火砕流堆積物）が認められる可能性が考えられるが、そのような状況は認められない。

孔口標高：13.74m



コア写真（深度0～15m）

--- : 仮にニセコ火山噴出物（火砕流堆積物）が本地点に到達していた場合、ニセコ火山噴出物（火砕流堆積物）が認められる可能性が考えられる範囲

B-3ボーリング (2/3)

孔口標高: 13.74m



コア写真 (深度15~30m)

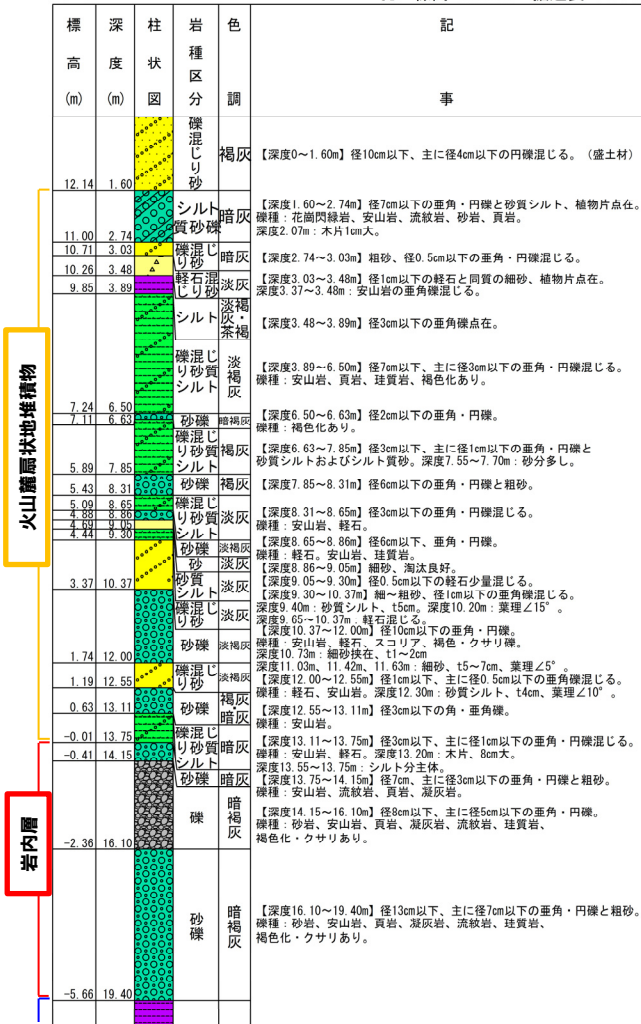


コア写真 (深度30~40m)

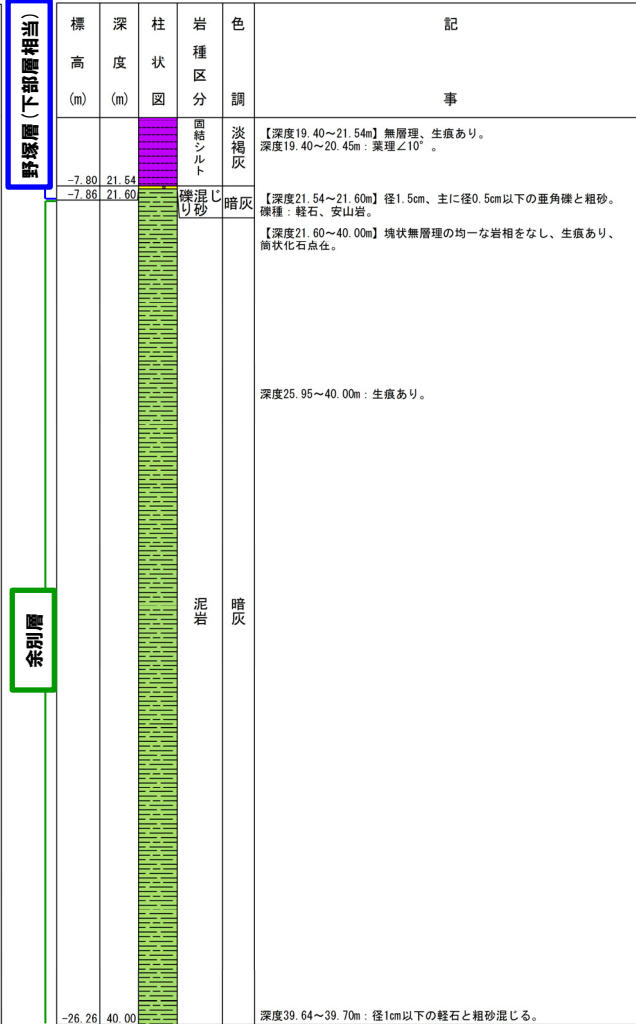
ニセコ火山噴出物（火砕流堆積物）関連

B-3ボーリング (3/3)

B-3 孔口標高 13.74m 掘進長 40.00m



ボーリング柱状図 (深度0~20m)



ボーリング柱状図 (深度20~40m)

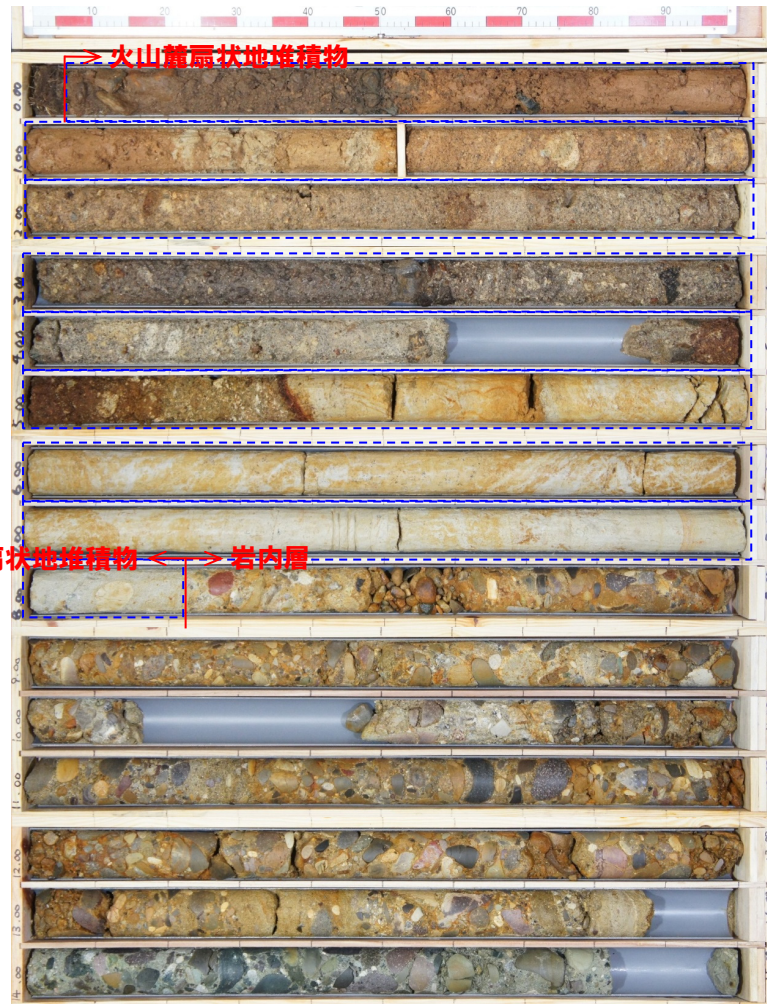
凡例

- シルト
- 砂質シルト
- 礫混じり砂質シルト
- 砂
- 軽石混じり砂
- 礫混じり砂
- シルト質砂礫
- 砂礫
- 礫
- 固結シルト
- 泥岩

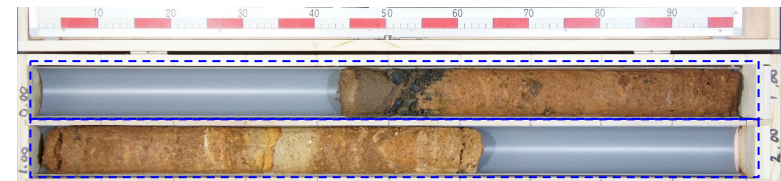
B-7ボーリング(1/3)

一部修正(R5/7/7審査会合)

孔口標高:32.32m



コア写真(深度0~15m)



コア写真(深度0.5~1.5m) 別孔

火山麓扇状地堆積物 ← → 岩内層

- 本地点においては、コア観察の結果、岩内層上位の標高32.27~24.10m(深度0.05~8.22m)に火山麓扇状地堆積物が認められる。
- 仮にニセコ火山噴出物(火砕流堆積物)が本地点に到達していた場合、ニセコ火山噴出物(火砕流堆積物)の噴出年代より古い、岩内層の上位に、ニセコ火山噴出物(火砕流堆積物)が認められる可能性が考えられるが、そのような状況は認められない。

⋮ : 仮にニセコ火山噴出物(火砕流堆積物)が本地点に到達していた場合、ニセコ火山噴出物(火砕流堆積物)が認められる可能性が考えられる範囲

B-7ボーリング (2/3)

孔口標高:32.32m



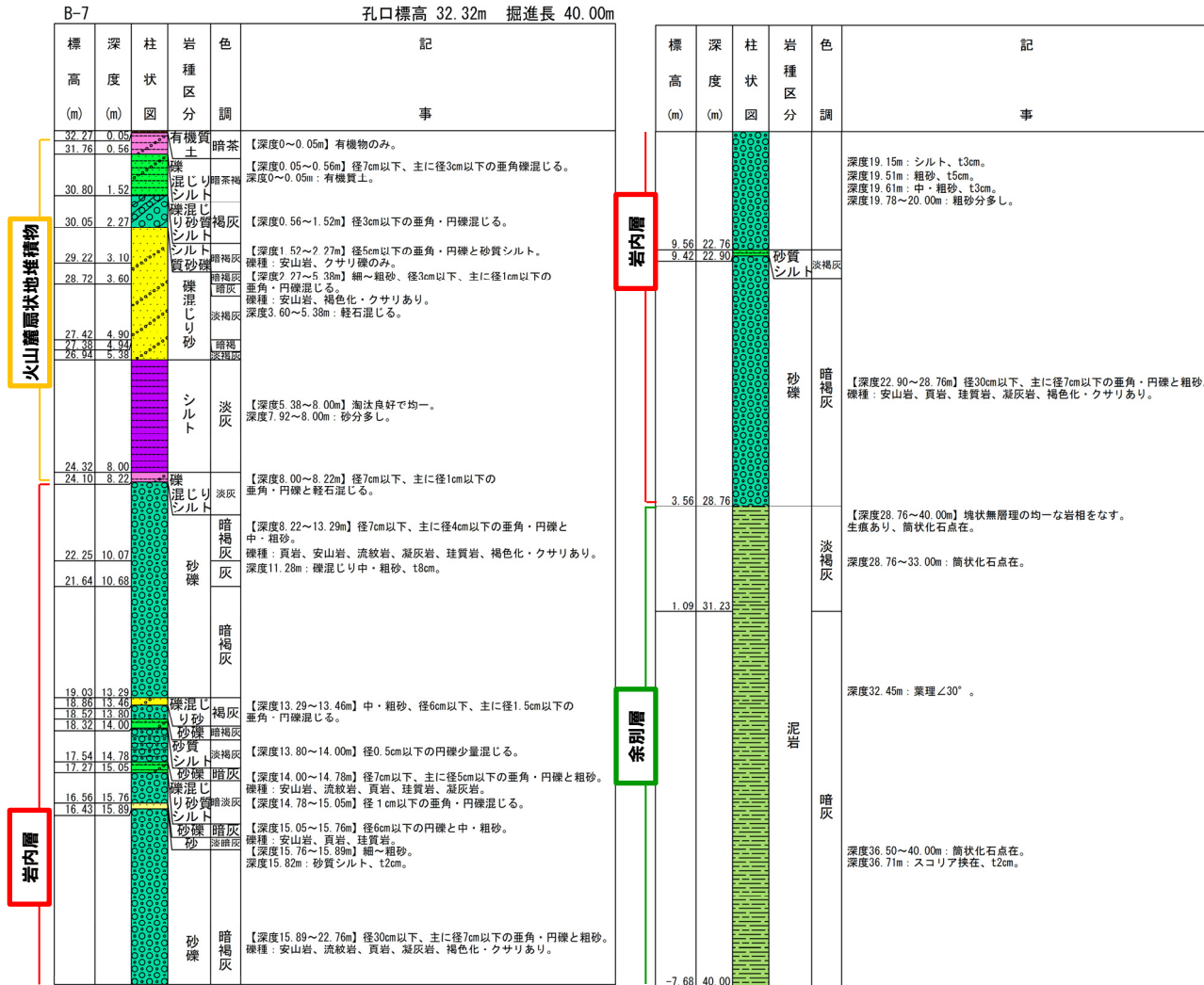
コア写真 (深度15~30m)



コア写真 (深度30~40m)

ニセコ火山噴出物(火砕流堆積物) 関連

B-7ボーリング(3/3)



火山礫層状堆積物

岩内層

余別層

岩内層

ボーリング柱状図(深度0~20m)

ボーリング柱状図(深度20~40m)

凡例

- 有機質土
- シルト
- 砂質シルト
- 礫混じり砂質シルト
- 礫混じりシルト
- 砂
- 礫混じり砂
- シルト質砂礫
- 砂礫
- 泥岩

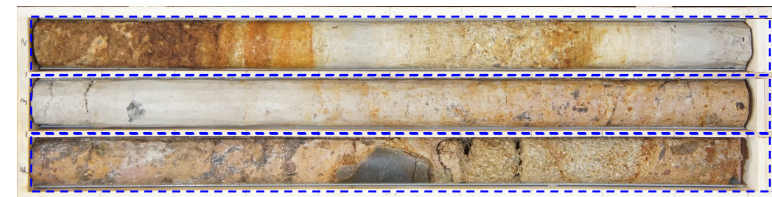
C-1ボーリング(1/3)

一部修正 (R5/7/7審査会合)

孔口標高: 15.88m



コア写真(深度0~15m)



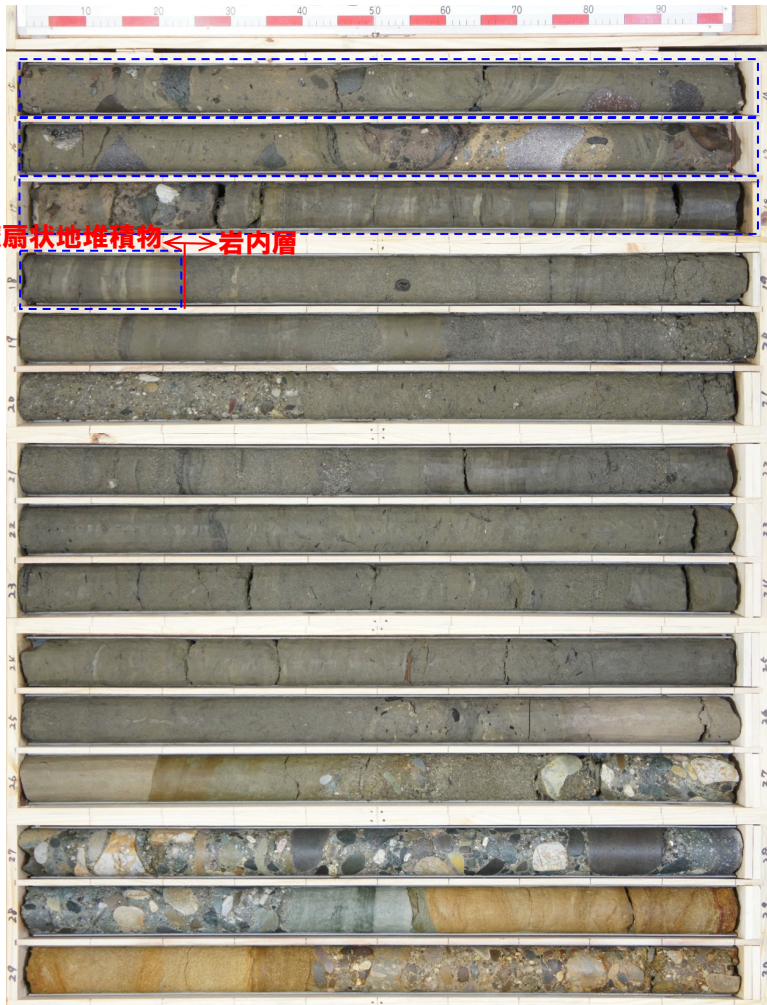
コア写真(深度2~5m)別孔

- 本地点においては、コア観察の結果、岩内層上位の標高15.23～2.35m(深度0.65～18.23m)に火山麓扇状地堆積物が認められる。
- 仮にニセコ火山噴出物(火砕流堆積物)が本地点に到達していた場合、ニセコ火山噴出物(火砕流堆積物)の噴出年代より古い、岩内層の上位に、ニセコ火山噴出物(火砕流堆積物)が認められる可能性が考えられるが、そのような状況は認められない。

ニセコ火山噴出物（火砕流堆積物）関連

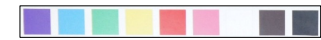
C-1ボーリング (2/3)

孔口標高: 15.88m



火山麓扇状地堆積物 <-> 岩内層

コア写真 (深度15~30m)



岩内層 <-> 野塚層 (下部層相当)

コア写真 (深度30~45m)

ニセコ火山噴出物(火砕流堆積物)関連

C-1ボーリング(3/3)

C-1 孔口標高 15.88m 掘進長 45.00m

標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	記事
15.23	0.65		有機質シルト	暗茶緑	【深度0~0.65m】植物根と少量のクサリ礫混じる。
14.38	1.50		シルト	炭褐灰	【深度0.65~1.70m】均一。
14.18	1.70		炭褐灰	炭褐灰	【深度1.70~2.28m】径1cm以下の垂角・円礫混じる。 礫種：安山岩、クサリ。
13.60	2.28		礫混じり砂質シルト	暗褐灰	【深度2.48~2.75m】径1.5cm以下の垂角・円礫混じる。 礫種：安山岩、クサリ。
13.40	2.48		シルト	炭褐灰	【深度2.75~4.30m】均一。深度3.40~3.85m：炭質物混じる。
13.13	2.75		シルト	炭褐灰	【深度4.30~17.27m】径13cm以下、主に径7cm以下の角・垂角・円礫混じる。 礫種：安山岩、珪質岩、褐色化・クサリあり。
11.58	4.30		暗褐灰	暗褐灰	【深度17.27~18.23m】砂質部挟にし葉理をなす。
6.10	9.78		礫混じり砂質シルト	暗褐灰	【深度18.23~19.14m】細・中砂。深度18.30m：シルト、t1cm。 【深度19.14~19.41m】砂質部と互層し葉理をなす。 【深度19.41~19.90m】細・中砂。淘汰良好。 【深度19.90~19.95m】砂質シルト、t9cm、生痕あり。
-1.39	17.27		シルト	暗灰	【深度18.23~19.14m】細・中砂。深度18.30m：シルト、t1cm。 【深度19.14~19.41m】砂質部と互層し葉理をなす。 【深度19.41~19.90m】細・中砂。淘汰良好。 【深度19.90~19.95m】砂質シルト、t9cm、生痕あり。
-2.35	18.23		砂	暗灰	【深度18.23~19.14m】細・中砂。深度18.30m：シルト、t1cm。 【深度19.14~19.41m】砂質部と互層し葉理をなす。 【深度19.41~19.90m】細・中砂。淘汰良好。 【深度19.90~19.95m】砂質シルト、t9cm、生痕あり。
-3.26	19.14		砂質シルト	暗灰	【深度18.23~19.14m】細・中砂。深度18.30m：シルト、t1cm。 【深度19.14~19.41m】砂質部と互層し葉理をなす。 【深度19.41~19.90m】細・中砂。淘汰良好。 【深度19.90~19.95m】砂質シルト、t9cm、生痕あり。
-3.53	19.41		砂	暗灰	【深度18.23~19.14m】細・中砂。深度18.30m：シルト、t1cm。 【深度19.14~19.41m】砂質部と互層し葉理をなす。 【深度19.41~19.90m】細・中砂。淘汰良好。 【深度19.90~19.95m】砂質シルト、t9cm、生痕あり。
-4.02	19.90		砂	暗灰	【深度18.23~19.14m】細・中砂。深度18.30m：シルト、t1cm。 【深度19.14~19.41m】砂質部と互層し葉理をなす。 【深度19.41~19.90m】細・中砂。淘汰良好。 【深度19.90~19.95m】砂質シルト、t9cm、生痕あり。

ボーリング柱状図(深度0~20m)

標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	記事
-4.52	20.40		砂礫	暗灰	【深度19.90~20.40m】径6cm以下、主に径2cm以下の垂角・円礫。 礫種：安山岩、珪質岩、流紋岩。 【深度20.40~21.47m】細~粗砂、シルト混在。炭質物点在、径1cm以下の垂角礫少量混じる。深度21.12~21.47m：シルト挟在、t0.5~4cm。
-5.59	21.47		シルト混じり砂	暗灰	【深度21.47~21.79m】葉片状の炭質物挟在。
-5.91	21.79		シルト	暗灰	【深度21.79~21.92m】細~粗砂、少量の炭質物混じる。
-6.04	21.92		砂質シルト	暗灰	【深度21.92~22.64m】生痕あり、炭質物点在。
-6.76	22.64		シルト混じり砂	暗灰	【深度22.64~25.49m】細・中砂、不規則にシルト混じり、生痕あり。 葉片状・片状の炭質物点在。 深度24.55m：木片5cm大。
-9.61	25.49		砂質シルト	暗灰	【深度25.49~26.44m】葉片状・片状の炭質物点在。
-10.56	26.44		砂礫	暗灰	【深度26.44~26.59m】径4cm以下、主に径2cm以下の円礫と中・粗砂。
-10.71	26.59		砂	暗灰	【深度26.59~26.73m】中・粗砂、淘汰良好。
-10.85	26.73		砂礫	暗灰	【深度26.73~28.37m】径10cm以下、主に径5cm以下の円礫と粗砂。 礫種：安山岩、珪質岩、珪質岩、流紋岩。
-12.49	28.37		砂	暗灰	【深度28.37~29.41m】細・中砂。 【深度29.41~30.05m】径19cm以下、主に径3cm以下の円礫と粗砂。 礫種：花崗閃緑岩、安山岩、流紋岩、珪質岩、珪質岩、凝灰岩。
-12.70	28.58		砂	暗灰	【深度28.37~29.41m】細・中砂。 【深度29.41~30.05m】径19cm以下、主に径3cm以下の円礫と粗砂。 礫種：花崗閃緑岩、安山岩、流紋岩、珪質岩、珪質岩、凝灰岩。
-13.53	29.41		砂	暗灰	【深度28.37~29.41m】細・中砂。 【深度29.41~30.05m】径19cm以下、主に径3cm以下の円礫と粗砂。 礫種：花崗閃緑岩、安山岩、流紋岩、珪質岩、珪質岩、凝灰岩。
-20.17	36.05		暗褐灰	暗褐灰	【深度36.05~40.31m】無層理、生痕あり、少量の炭質物点在。 【深度36.36~36.46m】シルト質細砂、葉片状炭質物挟在、 $\angle 3\sim 15^\circ$ 。 【深度37.04~37.43m】葉片状炭質物挟在。 【深度37.75~37.90m】生痕あり。
-20.26	36.14		暗褐灰	暗褐灰	【深度36.05~40.31m】無層理、生痕あり、少量の炭質物点在。 【深度36.36~36.46m】シルト質細砂、葉片状炭質物挟在、 $\angle 3\sim 15^\circ$ 。 【深度37.04~37.43m】葉片状炭質物挟在。 【深度37.75~37.90m】生痕あり。
			固結シルト	暗灰	【深度38.18m】細・中砂、t5cm、 $\angle 5^\circ$ 。 【深度38.50m】生痕あり。

ボーリング柱状図(深度20~40m)

標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	記事
-24.43	40.31		固結砂質シルト	暗灰	【深度40.31~41.37m】t1cm以下の細砂レンズ挟在。 【深度40.80~41.37m】炭質物点在。 【深度41.38m】径2cm以下の垂角礫混じる。
-25.49	41.37		砂	暗灰	【深度41.38~42.00m】シルト挟在し綿状、葉理 $\angle 0\sim 10^\circ$ 。
-25.67	41.55		砂	暗灰	【深度41.38~42.00m】シルト挟在し綿状、葉理 $\angle 0\sim 10^\circ$ 。
-26.12	42.00		砂	暗灰	【深度41.38~42.00m】シルト挟在し綿状、葉理 $\angle 0\sim 10^\circ$ 。
-29.12	45.00		砂礫	暗褐灰	【深度42.00~45.00m】径7cm以下、主に径5cm以下の円礫・粗砂。 礫種：珪質岩、凝灰岩、流紋岩、安山岩、珪質岩、褐色化あり。 【深度44.88~45.00m】砂分多し。

ボーリング柱状図(深度40~45m)

凡例

- シルト
- 有機質シルト
- 砂質シルト
- 礫混じり砂質シルト
- 砂
- シルト混じり砂
- 砂礫
- 固結シルト
- 固結砂質シルト

火山礫状地堆積物

岩内層

野塚層(下部層相当)

野塚層(上部層相当)